

1.A.I. 大阪城天守閣



天正11年(1583)、豊臣秀吉が築城。秀吉亡き後、慶長20年(1615)5月7日 大坂夏の陣で落城。その後、徳川幕府によって再築され、幕府の西日本支配の拠点となる。現在残されている石垣や櫓は全て江戸時代のもの。寛文5年(1665)落雷により天守を焼失。以後、天守は再建されなかったが、昭和6年に全額大阪市民の寄付金で現在の天守閣が復興された。幕末には14代将軍家茂、15代将軍慶喜が相次いで入城し、大坂城は幕末政治の重要な舞台となった。*完歩された方は完歩証を提示すると入館料600円が540円に割引されます。(7/1限り。入館は16時30分まで)

2.B.III. 多聞櫓 (重要文化財)



当初の多聞櫓は寛永5年(1628)に創建されたが、天明3年(1783)に落雷で焼失し、嘉永元年(1848)に現在の建物が再建された。「多聞櫓」とは長屋形式の櫓のことで、大坂城内にはかつて京橋口、玉造口、桜門、極楽橋などにも多聞櫓が存在したが、全て焼失し、現在残されている多聞櫓はここ大手口のみである。*11月26日(日)まで土曜日、日曜日、祝日限定で公開中。夏休み期間中(7月22日から8月31日)は連日公開中(月曜日定休)。

3.C. 大阪府庁



本館は大正15年(1926)に竣工。現存する都道府県庁舎として最も古い。最初の大阪府庁舎は明治7年(1874)川口居留地と木津川を挟んで対面する江之子島に建てられ、「江之子島政府」と呼ばれた。近代建築としての価値も高く、映画のロケなどにも使用されている。

4.D. 東町奉行所跡



江戸時代の大坂は幕府直轄地であったため、東・西の町奉行所が設置され、一ヶ月交代で警察・司法・行政の任にあたった。当初、東・西町奉行所はともに現在の大手前合同庁舎1号館の場所に設置されたが、享保9年(1724)の大火で焼失したのを機に西町奉行所は本町橋東詰に移転した(現、マイドームおおさか)。

5.E. 八軒家船着場跡



天満橋と天神橋の間一帯は、中世には「渡辺津」と呼ばれ、瀬戸内海水運と淀川水運の結節点として大いに賑わったが、海が西に遠のいた江戸時代には「八軒家浜」と呼ばれるようになり、大坂と京都・伏見を結ぶ三十石船の発着場として賑わった。「八軒家」という地名の由来は昔ここに八軒の船宿があったからといわれる。

6.F. 五代友厚像 (大阪取引所)



五代友厚は薩摩藩士として鹿児島に生まれ、欧州留学して外国事情に詳しいことから明治元年(1868)外国事務局判事として大阪に直した。大阪経済を立て直すために、商工業の組織化、信用秩序の再構築を図り、近代の商工都市大阪の礎を築いた。大阪にいくつかある五代友厚の銅像の中で最も大きい。

7.G. 大阪市中央公会堂 (重要文化財)



株の仲買人であった岩本栄之助の寄付金により、大正7年(1918)に完成。明治45年(1912)に行われた設計競技で最年少の岡田信一郎が1位となり大正2年(1913)6月に着工。ネオ・ルネッサンス様式を基調としつつ、バロッキングな壮さを持ち、大阪を代表する近代建築として大阪市民に親しまれている。

8.H. 大阪府立中之島図書館 (重要文化財)



住友家の寄付をもとに明治37年(1904)完成。大阪府下で初めての図書館となった。ネオ・バロッキング様式で建てられた格調高い建物は、大阪市中央公会堂と共に大阪を代表する近代建築である。コリント式円柱に支えられた正面はギリシャ神殿を、ドーム状の中央ホールは教会を思わせる造りとなっている。

9.I. 適塾 (重要文化財)



緒方洪庵が自宅に開いた蘭学塾。佐野常民、大村益次郎、大鳥圭介、橋本佐内、福澤諭吉、長与専斎ら多くの俊秀を輩出した。適塾は現存する我が国唯一の蘭学塾の遺構であり、幕末期の大阪の船場町屋の遺構としても貴重である。月曜日定休日。有料

10.J. 御霊神社



天照大神荒魂・津布良彦神・津布良媛神・応神天皇・源正霊神を祭神とする神社。もとは摂津国津村郷の産土神であった。豊臣秀吉の時代、文禄3年(1594)に当時因幡国鹿野城主であった亀井茲矩が自邸敷地の一部を寄進し、現社地に遷座したと伝わる。明治17年(1884)、人形浄瑠璃の「文楽座」が境内に開設され、「御霊文楽座」と呼ばれ、賑わった。

11. 鞆公園



江戸時代には「永代浜」と呼ばれ、塩干魚市場として賑わった。終戦後、連合国軍最高司令官総司令部(GHQ)は占領軍の常用飛行場として鞆飛行場を置いた。その後飛行場敷地は大阪市へ返還され、昭和30年(1955)に鞆公園が開園した。四ツ橋筋からあみだ池筋までなにわ筋を挟んで東西に細長い敷地を有する都市公園で、園内のほぼ中央部にバラ園があり、5月には大勢の見物客が来園する。

12. 長州藩蔵屋敷跡



中之島をはじめとする土佐堀川・堂島川沿岸には江戸時代、諸藩の蔵屋敷が集中していた。長州藩蔵屋敷は中之島から常安橋を渡ったところがあり、幕末には血気盛んな志士たちが出入りした。文久3年(1863)「八月十八日の政変」のあとには、長州へ落ち延びる途中の三条実美(さんじょうさねとみ)ら7名の尊王攘夷派公卿達がここに立ち寄ったと伝わる。

13. 大村益次郎萬居跡



大村益次郎は周防国(山口県)出身の医者で、はじめ村田蔵六と名乗った。適塾で医学・蘭学を学び、わずか1年で塾頭になった。次第に兵学にも傾倒し、万延元年(1860)には請われて長州藩の兵制改革にあたり、第二次長州戦争から戊辰戦争にいたるまで長州藩の軍事指揮官として活躍した。維新後には新政府の兵部大輔となり、近代軍制の制定に尽力したが、明治2年京都で不平士族に襲われて重傷を負い、浪華病院で手術を受けたものの、敗血症を起こし、亡くなった。適塾在籍時代はここから塾に通ったと伝わる。

14. 薩摩藩蔵屋敷跡



江戸時代、河川交通の便が良かった中之島周辺には、諸藩の蔵屋敷が集中して立ち並んだが、薩摩藩蔵屋敷は土佐堀川にあり、土佐堀川に上屋敷、江戸堀に中屋敷、立売堀に下屋敷があった。慶応4年(1868)薩摩藩は鳥羽・伏見の戦いで会津藩と激突するが、その際、薩摩藩はこの三か所の蔵屋敷を自らの手で焼き払った。

15. 福澤諭吉誕生の地



天保5年(1834)12月12日、福澤諭吉はこの地にあった中津藩蔵屋敷で生まれた。安政元年(1854)長崎に遊学し、翌年3月、緒方洪庵の塾塾に入門した。後に塾頭となる。3度わたる幕府の遣外使節に随行し、明治の文明開化啓蒙思想家として活躍、慶應義塾を開塾した。誕生地の石碑には、福澤諭吉がその著「学問のすゝめ」に書いた有名な一節「天八人ノ上二人ヲ造ラス、人ノ下二人ヲ造ラス」が刻まれている。

16. 日本銀行大阪支店



明治15年(1883)10月に日本銀行が創設され、同年12月には大阪支店が開設された。現在地に移ったのは明治36年で、当時は五代友厚の別邸があったところである。大阪を代表する近代建築の一つで、設計は辰野金吾が弟子たちを率いて担当した。

17. 中之島公園



堂島川と土佐堀川にはさまれた水辺公園。延長約1.5キロ、面積10.6haの緑あふれる親心のオアシスとして市民に親しまれている。開園は明治24年(1891)大阪市で始めた誕生した公園として知られる。現在の公園内には約310種類およそ3,700株からなるバラ園があり、5月中旬と10月中旬に見ごろを迎える。

18. 天神橋



19. 川の駅はちけんや



20. 造幣局



近代国家として貨幣制度の確立が急務であった明治新政府は、イギリス人技師ウォートルスを招き、最新式の貨幣鑄造工場を建設した。これが造幣局で、明治4年(1871)に創業した。創業時には右大臣三条実美をはじめとする政府高官が列席し、盛大に行われた。洋風建築にガス灯が灯され、その前の淀川(現在の太田川)を外輪船が行き交う光景は大阪の文明開化を象徴するものであった。造幣博物館(無料)や工場は見学可能(要:申込)。毎年4月に行われる桜の通り抜けには大勢の人々が押し寄せる。

21. 旧桜宮公会堂 (重要文化財)



明治4年(1871)に建設された造幣寮鑄造所の正面玄関を昭和10年明治天皇記念館の正面玄関として移築。戦後は桜宮公会堂、大阪市立図書館、ユースポートギャラリーとして使われた。現在内部はレストランとして活用されている。

22. 泉布観 (重要文化財)



明治4年(1871)造幣寮の応接所として建てられた大阪最古の洋風建築で、ウォートルスの設計。明治5年に明治天皇の大阪行幸が行われ、その際明治天皇の行在所となった。「泉布観」の名称はこの際明治天皇が命名したもので、「泉布」は貨幣、「観」は観を意味する。「史記」の一節から採られたもの。毎年3月に3日間のみ内部が公開されている。

23. 旧藤田邸跡公園



元藤田男爵邸の一部で、大阪市から名勝の指定を受ける。藤田伝三郎は長州出身の志士で、高杉晋作の奇兵隊に入り、活躍した。維新後、大阪に現れた伝三郎は軍靴製造を一手に引き受けて財をなし、運送業「藤田組」を設立。西南戦争の際に軍需物資の運送を手掛けて莫大な財を築き、藤田財閥へと発展する。藤田邸跡公園に隣接する太閤園、藤田美術館、大阪市公館もすべて元は藤田男爵邸。藤田美術館は、伝三郎以来藤田男爵家が蒐集した美術品を展示・公開する美術館で、日本で2番目に開館した私立の美術館である。太閤園には、旧藤田邸東邸が残り、現在は「淀川邸」と呼ばれ、料亭となっている。

24.N.II. 豊國神社



豊臣秀吉を祀る神社。秀吉は自らの遺言によって死後神格化され、朝廷から「豊國大明神」の神号が贈られた。社殿は京都・東山に造営されたが、大坂夏の陣で豊臣家が滅亡すると、秀吉の神格は否定された。維新後、明治天皇の命により「豊國大明神」は復活し、京都と大阪に社殿が造営された。京都が「とよくに」と読むのに対し、大阪は「ほうこく」と読む。当初は中之島に造営されたが、昭和36年に大阪城内の現社地に遷座。

K. 北御堂



L. 西町奉行所跡



M. 舎密局跡



IV. 城中焼亡埋骨墳



慶応4年(1868)1月3日に行われた鳥羽・伏見の戦いにおいて旧幕府軍は薩摩・長州を主力とする官軍に敗れ、大坂城に引き揚げた。官軍は大坂城を目指して進軍したが、6日夜徳川慶喜は会津藩主松平容保、桑名藩主松平定敬、老中板倉勝静らわずかな側近を伴って大坂城を脱出し、幕府軍艦開陽丸で江戸に逃げ帰った。主を失った旧幕府軍と官軍との間で大坂城の無血開城が話し合われたが、旧幕臣らが本丸御殿に火を放ったため、大坂城は炎上。薩長の兵は、一戦も交えず城を明け渡すことをよとせず、城に火を放ち自害した幕臣たちを武士の鑑と称え、城内の焼け跡から遺骨を取り出し、手厚く埋葬した。これが「城中焼亡埋骨墳」で、裏面に「慶応四年七月薩州長州建之」と刻まれている。

V. 大阪砲兵工廠跡



VI. 青屋門



VII. 極楽橋



VIII. 豊臣秀頼・淀殿自刃の地



小学生以下のお子様対象のクイズです!

こどもクイズ

問題!

クイズに答えて記念品をゲット!

江戸・京都そして大阪が舞台となった幕末・維新は今から〇〇年前に起きた!

1. 80年 2. 150年 3. 100年 答え

